

住友ベークライト株式会社 2026 年 3 月期 決算説明会

主な質疑応答議事録

日時 : 2025 年 11 月 14 日 (火) 15 時 00 分 ~ 16 時 00 分

説明者: 代表取締役社長執行役員 鍛冶屋 伸一

質疑応答では各部門担当役員による補足説明あり

【全社的な事項】

Q: 各セグメントの年間計画に対する進捗について

A: 高機能プラスチックは不採算製品の整理による数量減少が続き、依然として過渡期的な状況にある。一方で、半導体関連材料と QOL の進捗は順調、半導体関連材料では、中国での増産による人件費増があるものの、数量増による利益増が上回る。QOL は安定的に推移しており、北米の医療機器子会社の統合等固定費改善が進み、全体的に合理化の効果が出ている。

Q: 資本政策について、M&A や株主還元などの今後の方針は？

A: 基本的な方針に変更はなく、M&A 案件を探しつつ、無い場合には自己株式取得も視野に入れていく。

【半導体関連材料セグメント】

Q: 封止材の上期 YoY と QoQ の販売数量の伸びと価格の動向について

A: 販売数量は前年上期比 11% 増、QoQ で約 5% 増。価格に大きな変動はない。

Q: 封止材の下期見通しは？

A: 下期は旧正月等の季節的要因による数量減があるが、現時点で悪材料はなく、季節性を除けば中国を中心に非常に好調に推移する見込みである。順調にいけば上期より上振れの可能性はあるが、通期計画の数字は据え置きとしている。

Q: 中国の需要動向について

A: 補助金政策により家電、中華スマホ、EV 関連など好調。地政学・政治上のリスクがあり先行き不透明な部分もあるが、下期も緩やかに成長していくと予測している。

Q: AI 関連パワーデバイス市場拡大の寄与度は？

A: 封止材全体に占める AI 関連パワーデバイスの割合は 10% を占め、今後 15~20% まで伸びる可能性がある。売上寄与は封止材、ダイボンディングペースト、LαZ の順。

Q：LαZの年間見通しは？

A：パワー用途にも採用され、前年度に大きく伸長し業績も改善した。下期も伸長していくと考えている

Q：値上について、銀価格上昇による半導体用ボンディング用ペーストの売価への影響は？また、封止材も機会があれば実施するのか？

A：銀価格上昇に対して定期的に価格改定を実施しており、下期は売価が追い付く見通しである。封止材についても、原料高騰時には値上げも検討する。

Q：モビリティ戦略製品の進捗と来年度目標に向けた感触について

A：上期は、前年度比で10%程度伸長しているものの、自動車の全体的な不調や欧米のパワーデバイスの伸び悩みにより、年間計画の110億円でみると少し足りていない。今後は主に中国の自動車やパワー半導体関係の動向にもよるが、今期計画を達成できれば、来年度以降の数字も見えてくる。

Q：メモリー市場回復の影響は？

A：半導体用感光性材料が主に影響を受ける。2QはQoQで10%程度数量が伸びている。下期もDRAMの回復に伴い、2Qを上回る需要が見込まれ、伸長する見通しである。

【高機能プラスチックセグメント】

Q：高機能プラスチック部門の構造改革の効果と今後の取組みについて

A：最大の効果は北米の構造改革で、約10億円の改善を期待。日本、アジア、欧州は来期以降に一桁億円前半の改善を見込む。北米では価格転嫁を進めているが、来年度以降の販売数量やトランプ関税による間接影響が不透明のため、状況を注視し、結果に応じて追加施策を検討する。

【クオリティオブライフ関連製品】

Q：ヘルスケア領域で低侵襲の医療機器の拡販を強化とあるが、これは主に消化管のステントを中心としたラインナップの拡充をしていくということか？

A：低侵襲領域においては、消化管ステント、ステアリングマイクロカテーテル等の血管内治療デバイス、胸部大動脈ステントグラフト等の製品ラインナップを進めている。現在の販売の10%強の増加を目指している。下期より順次ラインナップを増やしていく予定である。